

# 国際病理アカデミー

## 日本支部

A NEWS BULLETIN 2008 Number4

Published quarterly  
by the Japanese Division  
of the International  
Academy of Pathology

### OFFICERS

#### PRESIDENT

*H.Hashimoto, M.D.(09)*

*University of Occupational and  
Environmental Health*

#### PAST PRESIDENT

*T.Morohoshi, M.D.(09)*

*Showa University*

#### PRESIDENT-ELECT

*O.Matsubara, M.D.(09)*

*National Defense Medical College*

#### SECRETARY-TREASURER

*N.Nemoto, M.D.(09)*

*Nihon University*

#### COUNCILLORS

*M.Shimizu, M.D.(08)*

*Saitama Medical School*

*T.Nojima, M.D.(08)*

*Kanazawa Medical University*

*T.Yoshino, M.D.(09)*

*Okayama University*

*T.Shiraishi, M.D.(09)*

*Mie University*

*T.Sano, M.D.(10)*

*Tokushima University*

*H.Sasano, M.D.(10)*

*Tohoku University*

#### COMMITTEE CHAIR

##### Education, Chair

*Z.Naito, M.D.(09)*

*Nippon Medical School*

##### Finance

*H.Iwaki, M.D.(08)*

*Fukuoka University*

##### Nomination

*T.Morohoshi, M.D.(09)*

*Showa University*

##### Course Director,SPU

*R.Y.Osamura, M.D.(09)*

*Tokai University*

## 第2回日本・台湾合同スライドカンファレンスをお世話して

平成20年9月6日(土)(午前)に福岡市のNTT夢天神ホールで第2回日本・台湾合同スライドカンファレンスが開催された。午前9時に開会式が開かれ、橋本 洋 IAP 日本支部会長、Chien-Feng Sun IAP 台湾支部会長および長村義之 IAP アジア地区担当副会長の挨拶に続いて、根本則道 IAP 日本支部常任幹事と Dr. Sun により参加者(日本41名、台湾17名)が紹介された。引き続き行われたスライドカンファレンスでは日本側から5例、台湾側から5例が出題された。進行は日韓合同スライドカンファレンスのこれまでの進め方を踏襲し、まず相手国の Discussant が HE 切片のみで症例を分析し、鑑別診断と必要と思われる免疫染色や遺伝子解析などについて解説し、続いて Submitter が発表した後で討論に入った。10題すべてが大変興味ある魅力的な症例であり、各例とも活発に討論された。以下に各症例(T: 台湾側、J: 日本側)の Submitter, Discussant, Moderator 並びに Submitter の診断を順に記載する。T-1: Dr. Ying-Tai Jin, 竹下盛重先生, Dr. Chien-Feng Sun, Malignant melanoma arising in giant congenital nevi; J-1: 高瀬 優先生, Dr. William Y.C. Chang Chien, 藤井丈士先生, Idiopathic duct-centric chronic pancreatitis (autoimmune pancreatitis with granulocyte epithelial lesion); T-2: Dr. Shun-Chen Huang, 小田義直先生, Dr. Hsuan-Ying Huang, Histiocytic sarcoma; J-2: 薛 宇孝先生, Dr. Jin-Fan Chen, 河野真司先生, Congenital mesoblastic nephroma, cellular type; T-3: Dr. Li-Yu Lee, 中谷行雄先生, Dr.



第2回日本-台湾合同スライドカンファレンス集合写真



懇親会での歓談



特別講演をするRobin A. Cooke先生

Tseng-tong Kuo, Chronic sclerosing dacryoadenitis & chronic sclerosing sialadenitis, IgG4-related; J-3: 唐小燕先生, Dr. Wai-Sang Kuan, 二階堂孝先生, Secretory carcinoma with spindle cell metaplasia of the breast; T-4: Dr. Hsuan-Ying Huang, 三橋智子先生, Dr. Ying-Tai Jin, HMB45-negative clear cell sarcoma of soft tissue; J-4: 米盛葉子先生, Dr. Yi-Chen Yeh, 濱田哲夫先生, Classic glomus tumor; T-5: Dr. Chen-Yun Kuo, 鹿股直樹先生, Dr. John Wang, Extragastrintestinal stromal tumor, high risk group; J-5: 佐野壽昭先生, Dr. Mu-Zon Wu, 加藤洋先生, Gastric carcinoid associated with prominent endocrine cell hyperplasia/dysplasia. 今回は参加者全員に症例のバーチャルスライドをDVDで配布し、その後サクラファインテックジャパンのサーバーを拝借してそれらをネット上でも見れるようにしたが、参加者が症例を事前にどのようなようにして観察できるかは経済的なことも含めて今後の検討課題であると思われる。

特別講演として Brisbane での第25回 IAP 国際学会 (2004年) の会長をされ、また長年に亘って IAP の News Bulletin である International Pathology の編集を担当されている Dr. Robin A. Cooke (Brisbane, Australia) に "The influence of European medicine (pathology) on Japan and Taiwan" のタイトルでお話いただいた。Cooke 先生が各国の IAP 活動と医学史に精通されていることは有名であるが、Philipp Franz B. von Siebold に関して想像できないほどに詳細な知識と興味を持たれており、von Siebold の足跡を辿りながら、江戸時代末期の日本の近代医学史の曙へ彼がいかに貢献



特別講演の感謝状を授与されるR. A. Cooke先生と橋本洋会長

したかを中心に講演された。なお、前日に長崎市のシーボルト記念館と田口尚教授のご案内で長崎大学医学部図書館の資料室を訪問され、所蔵された資料を並々ならぬ情熱で撮影されていたのは印象的であった。

昼食の後、台湾語への通訳者を伴って博多山笠で有名な櫛田神社と大宰府の史跡並びに太宰府天満宮などを観光して、蟹料理屋での懇親会へ移り、大変楽しい雰囲気の中で盛り上がった。

今回は2年前の台北での初回に続いたのであるが、お互いに少しずつ自由な会話を楽しめる交流が始まった印象を受けた。2年後(2010年)の第3回は、台湾の新幹線が開通したこともあり、高雄で開催される予定であることが報告され、参加者の口々から“ぜひとも参加しよう”との声が聞かれた。

最後になりましたが、症例の出題者、討論者並びに座長の先生方には大変お世話になり有難うございました。またその他の参加者の皆様にはご協力を心より感謝いたします。

(橋本 洋 記)

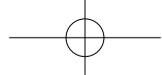
## 第11回日韓合同スライドカンファレンスについて

第11回日韓合同スライドカンファレンスは第10回のフォアウェルパーティーの際に名古屋で藤田保健衛生大学の黒田がお世話するようにご指名を受けました。

第9回を岩政輝夫教授がお世話をされた時から、骨軟部腫瘍病理、肺病理、腎病理の3つのスライドカンファレンスとのジョイントミーティングとなり定着しています。

第11回のご指名を受け、10月2日(金)、3日(土)の開催で準備を進めていましたが、腎病理が腎臓病学会と重なることが判明し、10月9日(金)、10日(土)への変更を余儀なくされました。しかしながら10月10日(土)は大安で、名古屋の会場は結婚式で埋まっております、国際会議場も3つの学会が全ての部屋をおさえていることがわかりました。従って通常の日曜日の午後に IAP, 土曜日の午前中に3つのジョイントミーティングを開くことが不可能になりました。従って苦肉の策ではありますが、10月9日(金)の午前中に3つのジョイントミーティングを先に実施し、昼食後、午後に日韓合同スライ





諸星 利男(昭和大学医学部第一病理学教室)

\*B-2 肺の外科病理 update

中谷 行雄(千葉大学大学院医学研究院診断病理学講座)  
松原 修(防衛医科大学校病態病理学講座)

C-2 悪性リンパ腫関連疾患

吉野 正(岡山大学大学院病理学)

D-2 皮膚付属器腫瘍

清水 道生(埼玉医科大学国際医療センター病理診断科)

\*印は新規のコースです。病理専門医の資格更新単位として10単位が得られます。受講料：1コース IAP 日本支部会員 6,000 円、非会員 8,000 円です。

今年度は事前送付資料の内容が多少複雑になっております。A-1,B-1,A-2,B-2 の新規 4 コースの送付資料はバーチャルスライド (DVD-R) で Windows と Mac に対応します。C-1,C-2 コースはバーチャルスライド (DVD-R) で、Windows のみに対応します。D-1 ,D-2 コースは、ガラス標本をお送りします。

現在スライドセミナーには、240 名の応募があり、当選通知をお送りさせていただきました。受講料の入金確認後、10 月下旬には事前資料をお送りする予定です。

また、今回は、第 54 回日本病理学会秋期特別総会 (11 月 20 日・21 日) と同じ施設で開催致します。病理学セミナーの当日午後、スライドセミナーの会場について、A コース・B コースでは 1 時限目と 2 時限目の会場が異なりますので入室される際、ご注意くださいようお願い申し上げます。

【訂正とお詫び】雑誌「Pathology International」6 月号と「臨床病理」6 月号に折り込んだ参加申込用紙 (ハガキ) の内容で、以下の誤りがありました。吉野正先生の「悪性リンパ腫関連疾患」コースのコース名を C-1 と記載しておりますが、正しくは、C-2 です。不手際をお詫び申し上げます。なお、このたび IAP 会報に同封したハガキは訂正したものをお送りしています。

雑誌購読申込についてお願い

IAP 日本支部会員になると United States and Canadian Academy of Pathology (USCAP) の発行する "Laboratory Investigation" と "Modern Pathology" を市場価格より安く購読することができます。多くの会員が購読をされていますし、事務局の大切な仕事と考えています。ただ、これで支部事務局が仲介料など一切取っておりません。

毎年初めに、購入希望者のもとへ雑誌がきちんと届かな

いというトラブルが数件発生しています。IAP 日本支部としては、USCAP の本部から、出版社へクレームしてもらっています。日本支部事務局は、購入希望者のリスト (英文の住所と名前) を作り、USCAP の本部へそのリストと購入代金を US \$ に換えて送り、雑誌社へ連絡を取ってもらう手続きとなっています。出版社を Williams & Wilkins 社から Nature Publishing Group (NPG) へ変えたため、混乱が増加しているとのことです。会員皆様からのクレームの度に、USCAP の本部へその旨を伝えています。

日本支部事務局もこういったトラブルは避けたいので、下記の対策をとりたいと考えます。どうぞ購入希望者はご協力をお願いします。

1. 購入希望申込の返信は 11 月 17 日までをお願いします

購入希望申込を早く行います。来年 1 月からの雑誌に対して、クリスマスまでにまとめて申し込みます。毎年、締め切りの後に何人からか申込があるのですが、本部に頼ってしまった後ですと、どうにもならないので、どうか締め切りに間に合わせて下さい。代金の締め切りは 11 月末日とします。こちらが代金を受領したことを確認するため、受け取った旨のお返事を FAX でお返しします。1 週間しても返事のないときは事務局まで、ご連絡を下さい。

2. 英語の表記をより明瞭にお願いします

誤配送を防ぐためです。

3. 途中での送り先の変更はご遠慮下さい

日本支部事務局へ言ってこられることがあり、本部へ連絡するのですが、申し込んだ年度内は無理のようです。ご理解下さい。

以上、どうぞよろしくお願い致します。

あともがき:

2008 年度 IAP 日本支部の会報第 4 号と本部のプレティンをお届けします。

今回は日台合同カンファレンスの記事が中心となりました。会報の他、理事選挙関連の資料、投票の葉書、第 48 回 IAP 日本支部総会の出欠の葉書、雑誌の購読申込書を同封します。ご確認の上、お早めに返信のほどお願い致します。

173-8610 東京都板橋区大谷口上町 30-1

日本大学医学部病態病理学系病理学分野 根本則道/家守玉美  
Tel: 03-3972-8111 内線 2256 / Fax: 03-3972-8163

E-mail: iapj@med.nihon-u.ac.jp